

第4回宇治市水道事業経営審議会議事録

会議名	第4回宇治市水道事業経営審議会
日時	令和3年1月18日(月) 午後3時00分～午後4時30分
場所	宇治市役所8階 大会議室
出席者	<p>(委員) 西垣会長 向畑副会長 伊木委員 島津委員 清水委員          徳田委員 向山委員 山崎委員 山田委員 山本委員 横川委員          (事務局) 秋元上下水道部長 山田上下水道部副部長 横山上下水道部技術          参事 塚本営業課長 津田工務課長 中村配水課長 公文水管理          センター場長 野口水道総務課副課長 中井工務課主任 藤川水          道総務課主任 大西水道総務課主任          谷尾水道総務課主任</p> <p>(傍聴者) 2名</p>
1	開会
2	議事
	<p>(1) 「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」(初案)について</p> <p>① 「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」初案          事務局より説明が行われた。(資料1)</p> <p>② 「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」概要版          事務局より説明が行われた。(資料2)</p> <p>質疑応答</p> <p>(委員) 残留塩素濃度は、常に基準値を満たしていると補足した方が良いのではないか。また、管路の老朽化について、20年、30年先の状況も示すことで、今後10年間の将来予測に対する理解がより深まると感じた。なお、一般市民の視点から、施設の詳細な仕様等は参考資料として巻末等に整理した方が読みやすいと考える。</p> <p>(事務局) 残留塩素濃度に関して、徹底した水質管理を行っているので、誤解のないよう記載したい。また、将来予測、施設についての記載方法も合わせて再考する。</p> <p>(会長) 技術的な記述も必要となるが、一般市民の視点を考慮すると、より技術的な記述は適宜資料編に回す、あるいは簡単な表現とするなどの対応も考えていただきたい。</p> <p>(委員) 収益的収支について、計画初年度からマイナスである理由を、記載され</p>

	ている表から理解することは難しいのではないか。その要因の一つである、受水費について、京都府営水道から購入している用水の料金上昇に伴う市民への影響は記載しないのか。
(事務局)	ご指摘の点、宇治市の経営を圧迫するような料金改定がなされた経過や趣旨について、記載の方法を検討する。
(会長)	府営水の施設においても積極的な更新投資を行ったことから、その費用が宇治系の受水市町への供給料金に反映される見込みがある。このような更新投資が必要な時期は各市町で周期的に発生することから、それを平準化するために料金の統一が図られた。一方で、用水供給について、浄水場間の用水の融通がきいたり、管路も耐震化が進んでおり、水道水供給のための安心・安全の意識が高まっている。京都府営水道の料金改定については、そういった両面を記載いただきたい。
(委員)	資金残高について、令和6年度からマイナスとなるが、対応策等の説明が必要ではないか。また130億円の投資は、施設の統廃合によるコスト削減を踏まえた上での財政計画であることを示すべきである。もう一点、浄水場の耐震化率について、水の供給能力に対する耐震化率という視点から、府営水の施設も含めた数値の記載があっても良いと感じた。
(事務局)	130億円はコスト削減を踏まえたものである。今後も、将来の水需要を見据えた施設の規模・配置の適正化などにより、コスト削減に努めていく。
(会長)	建設投資の削減を行った後に、有効な投資計画がこれだけあるという表現としても良いと感じた。
(委員)	水道料金制度の見直しについて、新しい支払い方法導入の研究とは具体的にどういうことか。
(事務局)	これまで、従来の銀行口座からの引き落としや、納入通知書による銀行等での支払いのほかに、コンビニエンスストアやスマートフォンでの支払いを可能とするなど、技術の発展に伴い新しい支払い方法も検討・導入してきた。今後も技術の発展に伴ったものを導入できるよう検討・研究していく。
(会長)	用途別料金体系から口径別料金体系への移行を検討することが、なぜ今後の水需要の減少や建設投資の増加に対応した検討となるのか、説明を加えると良いのではないか。
(委員)	料金回収率を、今後10年間でどのようにして100%にするのか、対策等が記載された箇所を教えていただきたい。また、国庫補助金の獲得について、他の自治体の動き等を教えていただきたい。
(事務局)	料金回収率は、分析、全体総括に留め、目標に挙げていない。しかし100%を目指すという姿勢で今後も取り組む。厚生労働省の補助金については、

要件を満たさなければ対象とならない。例えば、起債の程度が大きいと補助金の対象となることがあるため、これまででもできるだけ起債による資金調達を行い、利子をつけて返済しないように経営してきた。バランスが大切だが、もう少し借金をして、市民の負担を軽減しつつ、国庫補助金の獲得を考えなければならない時期にきていると認識している。

(2) 答申（素案）について

会長より説明が行われた。（資料3）

質疑応答

(委員) 市民や時代に応じたニーズを拾い上げながら、市民と宇治市の水道事業者が一体となった事業運営をしていくことが重要である。そのことも答申の中で補充しながら、現役世代と将来世代が一体となって宇治の水道、ライフラインを守っていくための計画案として、この議論を活かしていただきたい。

(会長) この答申が今後の宇治市の水道事業運営にとって、どのような意味で安心、安全、強靱に繋がるのか。ここで計画している更新投資等が持つ意味を市民に説明する際は、ぜひ意を尽くしていただきたい。

(委員) 経営の在り方という箇所、収支均衡にむけた取り組みとなっているが、黒字も赤字も出さないという意味でとられると意味合いが変わるので、表現を変えた方が良く思う。経常収支と資本収支では意味合いが異なるので、どちらの収支を指すのかを明示すべきである。資本収支の場合は、債務管理と資産管理の両方が関わってくる。それが均衡すればいいとは言えないと考えると、経常収支を健全化することと、債務の管理をどうするかというところがビジョンとなると思う。その両者の収支を区別して答申案に反映していただきたい。

(事務局) 収益の経常的なところが健全経営の指標になる。それを黒字化するということになるので、当然そこを分かりやすく伝える必要があると再認識した。

(委員) 一市民として、今までは節水を意識してきたが、水を使わないと水道事業は収益を得られない。このような状況で市民は、どのようなことをすれば良いのか。

(会長) 環境への配慮と、事業者としては水需要を増やしたいというトレードオフな政策の課題設定をしなければならないが、市民への要望といったことも考えると面白いと思う。

## 第4回宇治市水道事業経営審議会議事録

(委員) 収益的収支と資本収支、資金残高、企業債残高という欄があったので、そのあたりの経営計画を策定してもらいたい。資金面、企業債の管理等についての文言があると良いと思う。

(会長) 資料では、コストアップの要因が非常に多いが、コスト削減の要因として、民間委託の推進も進めている。また、京都府の用水供給事業も、受水市町と連携しながら全体としてのコストダウンを図るというような政策を取っている。そのようなところにコスト削減努力を鋭意進めていただきたいといったような要望をつけるのも良いと思う。特に宇治市は、京都府の南部において一番大きな市であり、市町連携においても大きく期待されている市でもある。そのような市町の連携によって、今後の宇治市にとっても用水効率、供給効率が上がってコストダウンが図れるよう、協力の在り方を模索していただきたい。また、このビジョンや答申が持つ今後の市町への影響や、この計画を進めることでの宇治市の水道事業への利点について、市民に分かりやすい説明を心がけていただきたい。

### (3) その他

事務局より、第5回審議会の日程調整等について説明が行われた。

### 3 閉会